

■有効求人倍率(静岡労働局 季節調整値改定値)

県内の11月の有効求人倍率は1.25倍、※前月を0.01ポイント上回った。リーマンショックは2008年9月
 有効求人倍率の推移(静岡県・全国) ※2009年8月は0.42%(全国)であった

区分	2007年平均	2008年平均	2009年平均	2010年平均	2011年12月	2012年12月	2013年11月	2014年12月
静岡県	1.20	0.87	0.40	0.52	0.68	0.73	0.91	1.14
全国	1.02	0.77	0.45	0.56	0.71	0.82	1.00	1.14

※全国値を25ヶ月連続で下回った

区分	2015年4月	2015年5月	2015年6月	2015年7月	2015年8月	2015年9月	2015年10月	2015年11月
静岡県	1.13	1.15	1.16	1.16	1.18	1.19	1.24	1.25
全国	1.17	1.19	1.19	1.21	1.23	1.24	1.24	1.25

○静岡労働局が12月25日発表した有効求人倍率(季節調整値)は1.25倍となり、前月を0.01ポイント上回った。

→全国値と同水準。全国値は1.25倍(対前月差0.01ポイント上昇)。

○新規求人倍率(同)は1.88倍となり、前月を0.04ポイント上回った。

→全国値を2ヶ月ぶりに下回った。全国値は1.93倍(対前月差0.10ポイント上昇)。

※平成27年11月の有効求人倍率は前月を0.01ポイント上回り、平成19年7月と同水準の1.25倍となっている。

新規求人数(季節調整値)及び有効求人数(季節調整値)では前月比で増加し、対前年同月比(実数値)では、新規求人数は4ヶ月連続増加し、有効求人数では67ヶ月連続増加しており引き続き高い水準で推移している。新規求職者数(季節調整値)及び有効求職者数(季節調整値)は前月比で減少し、対前年同月比(実数値)では、新規求職者数は5ヶ月連続減少し、有効求職者数では27ヶ月連続減少している。

■トピックス

2015年ヒット商品ランキング 1位は「北陸新幹線」(日経トレンディ発表)

- 1位 北陸新幹線
- 2位 火花
- 3位 インバウンド消費
- 4位 コンビニドーナツ
- 5位 ココナツオイル
- 6位 ガウチョパンツ
- 7位 チョイ呑み
- 8位 明治プロビオヨーグルトPA-3
- 9位 南アルプスの天然水&ヨーグリーナ
- 10位 アップルウォッチ

2015ユーキャン新語・流行語大賞

- 年間大賞:爆買い
- 年間大賞:トリプルスリー
- トップテン:アベ政治を許さない
- トップテン:安心して下さい、穿いてますよ。
- トップテン:一億総活躍社会
- トップテン:エンブレム
- トップテン:五郎丸(ポーズ)
- トップテン:SEALDs
- トップテン:ドローン
- トップテン:まいにち、修造!

大卒32%が離職(県内 3年前の新卒就職者:静岡労働局)

2012年3月に大学を卒業して就職し、3年以内に退職した人は前年を0.5ポイント下回る32.6%だった。全国値より0.3%高かった。担当者は「希望した仕事に就けないミスマッチが離職の理由として最も多い」と話す。

産業別にみると、宿泊・飲食サービス業が62.1%と最も高く、次いで教育・学習支援業が60%だった。最も低かったのは複合サービス業の15.1%で、建設業の17.7%と続いた。

企業規模にみると、5人未満が61.3%、30~99人が40.4%だったが、1000人以上は22.8%で、従業員が少ないほど早期離職率が高かった。

短大卒は前年より0.5ポイント増の41.4%(全国値41.5%)、高校卒は1.3ポイント減の34.4%(40%)、中学卒は4.6ポイント増の78.6%(65.3%)だった。県内は中卒の離職率が全国値を大幅に上回った。

昔から「七五三」と言われ、中卒は七割、高卒は五割、大卒は三割が早期退職するとされる。就職環境が厳しい時には高校生の離職率が低くなる傾向が見られる。